



ばいりん

令和 8 年 9 月号

横浜市立梅林小学校
TEL 045-773-0341
FAX 045-772-4862



セミの声

校長 安達 修久

今年の夏休み中、ここ数年のことを思うと「やや涼しいかな?」と思われる日が少しありました。温度計を見ると 29 度、30 度。特に暑くなる昼下がりに 32 度ほどだと、「ずいぶん楽だ」と思うくらいに、このところは 34 度超えくらいあたりまえになってきているのだと感じます。この夏には熊本の地震、千葉の豪雨などの災害が相次ぎ、ニュースなどで被害の様子を見るたびに自然の脅威を感じ、被災した方々のご苦労やつらさを想像して心痛む思いがしました。特に熊本の方では、気温が 39 度など酷暑日に近づくこともあるようで、厳しさはいかばかりかと思われました。

今年も 7 月に入ること、ニイニゼミの鳴く高い声が聞こえ始めました。その後少しして、アブラゼミやミンミンゼミが競うように鳴き出しました。同じころに、かつてはもっと南や西の方の地域でしか見られなかったクマゼミの重々しい声が、この辺りでも日常的に聞かれるようになりました。朝夕のやや涼しい時間帯には、遠くからヒグラシの鳴く声がこだまのように響いてきました。そして、立秋を過ぎて残暑、お盆の時期になるとツクツクボウシの鳴き声が聞こえてきて、例年と同様「もうすぐ夏休みが終わりだな」という思いになりました。暑さが年ごとに増してくる感のあるこのごろ、セミの音が聞こえてくる時季がいつもと変わらないのは、少しほっとするように思われます。

先日参加した研修の中で、学びとは「習得した知識・技能を生かして思考・判断しながら活動し、そこで習得した知識・技能を生かして、また思考・判断しながら活動することをくり返し、資質・能力の育成をめざしていくもの」との話がありました。かつてより多くの知識・技能を習得していることが、生きていく上での大きな力となっていた時期がありましたが、これからの世の中、知識・技能は AI が補ってくれる。しかし、資質・能力の育成にあたって重要な知識・技能は、体験を通して身に付けたものである、とのこと。1, 2 年生が学習する生活科の例では、観察記録の絵をかくなら生き物の画像を見てもかける。しかし手ざわり、においなど実感をもった記録にはならない。この、実感をもって身に付けた知識・技能は、他に替えがたいもので直接体験することではしか得られないし、実社会で生きていく上での大切な基礎基本といえる、というものでした。人とのかかわることも同様で、直接日々接する中で共に過ごす楽しさも難しさも体験することができ、そこからまたよりよいかかわりをもとうと次へとつなげることができる。学びのスタートに「主体的に取り組む」という姿を挙げていましたが、様々な体験をしているからこそ次への好奇心が広がり、「これは何だ?」「おもしろそう」「やってみよう」という姿勢につながるのではないかと思います。体験で身に付くのは、画像や動画、ゲームなどによる疑似体験では得られない知識・技能なのでしょう。

何の役にも立たないし自慢にもなりません、私が猛暑を体で感じたり、セミの鳴く時季を覚えて声を聴き分けたりできるのは、毎年夏を過ごしてきて得られた知識・技能なのだろうな、と思いました。そのような体験をしてこられたことを、夏を楽しむ気持ちとともに、少し幸せに思う今日この頃でもあります。

まだまだ残暑厳しい中、子どもたちは汗をかきかき坂を上って登校してきています。学校では、豊かな体験を通した学びを、暑さを適度にいなしながら進めていけるようにしたいと思います。